

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700608
法人名	有限会社 在宅福祉サービス ひまわり
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成 20 年 10 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670700608		
法人名	有限会社 在宅福祉サービス ひまわり		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市稲生一丁目3番5号 (電 話) 0235-25-5145		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.0人	

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての 階 ～	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	945 円	

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2	1 名	
要介護3	5 名		要介護4	2 名	
要介護5	1 名		要支援2	名	
年齢	平均 85.5 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 宮原病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「建物の造り」や「飾りつけ」にも「お客様へのもてなし」が感じられるホームであり、心地よいバック・グラウンド・ミュージックが流れる居間には、行事の写真や家族が撮影した季節の草花の写真が飾られており、ゆったりとした寛ぎの時間や楽しい語らいのひと時を過ごすことができます。
また、町内会や地区の活動にも積極的に取り組んできており、職員が地区社協や町内会の役員・隣組長などの役割を受け持つ、文化祭やお祭りに参加する、小・中・高生や一般ボランティアを受け入れる、幼稚園との交流会を開催する、登下校時の見守り隊活動を行う、地区で行っている配食サービス事業に職員1名を派遣するなど、さまざまな機会をとらえて地域との交流を深めているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が自己評価及び外部評価の意義を理解できるように、全職員で話し合いながら評価に取り組んでおり、改善が必要な点については検討を重ね、質の向上にも活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに市の担当職員、民生委員、介護相談員、家族代表等が出席して開催されており、行事や職員の異動、サービス評価の取り組み状況と結果の報告などを行い、サービスの向上に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会で意見交換された内容、介護相談員が定期的訪問した際の意見・要望をとりまとめたもの、毎年行っている事業所独自の家族アンケートの結果、面会時などに家族から寄せられた意見等を、ホームの運営にも反映できている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入していることから、職員が地区社協や町内会の役員・隣組長などの役割も受け持つっており、町内会の文化祭やお祭りへの参加、小・中・高生や一般ボランティアの受入、幼稚園との交流会開催、登下校時の見守り隊活動等、利用者とともにに行い地域交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でつながりをもちながら、その人らしく生活していくための理念を、職員で話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修時に理念について説明を行い、ホールに掲示するとともに、毎日の朝礼時と昼の引継ぎ時に理念や接遇目標等を唱和して、理念の実践にむけてた取り組みを進めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入していることから、職員が地区社協や町内会の役員・隣組長などの役割も受け持っており、町内会の文化祭やお祭りへの参加、小・中・高生や一般ボランティアの受入、幼稚園との交流会開催、登下校時の見守り隊活動等、利用者とともにに行い地域交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価及び外部評価の意義を理解できるように、全職員で話し合いながら評価に取り組んでおり、改善が必要な点については検討を重ね、質の向上にも活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに市の担当職員、民生委員、介護相談員、家族代表等が出席して開催されており、行事や職員の異動、サービス評価の取り組み状況と結果の報告などを行い、サービスの向上に役立てている。		

山形県 グループホームひまわり

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会や市主催の研修会に参加することにより、市の担当職員とも話し合い、連携をとりながらサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「お便り」と「個人毎の生活状況」を担当職員が記入して送付しており、健康状態については電話で随時連絡している。また、職員の異動については、その都度連絡して家族に伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見交換された内容、介護相談員が定期的訪問した際の意見・要望をとりまとめたもの、毎年行っている事業所独自の家族アンケートの結果、面会時などに家族から寄せられた意見等を、ホームの運営にも反映できている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設に職員が異動する場合となる場合もあるが、併設施設で行われる行事への参加、挨拶を交わせる機会を設ける、十分な引継ぎを行うこと等によって、馴染みの関係を大切に、利用者へのダメージを与えないケアを目指している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には特に力を入れており、外部研修にも職員が数多く参加できている。また、内部研修についての年間計画も作成されており、それぞれの段階に応じて職員を育てる取り組みが進められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で行っている交換実習への参加、他事業所の見学会の実施、地区連絡協議会の役員への疑問点の確認などを通して、同業者と交流したり、学んだりできる機会が設けられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの生活や体験の中から、日常生活の中での節約方法や食事とおやつ作りの工夫などを教わりながら、ともに支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者本人と話し合い、本人の希望や意向を聞くようにしている。また、困難な場合には、利用者の普段の様子や家族から聞いた話の内容から、それぞれの思いや意向を把握し、検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族と意向についての話し合いを行い、また、職員会議でも一人ひとりの希望や課題について意見を出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成した介護計画についての確認と見直しが毎月行われており、状態が変わった場合には更に話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診、往診が受 けられており、受診の際には「病状報告書」を作成し、 適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期についての説明と話し合いが利用開 始時に行われており、終末期の支援について、かかり つけ医にも確認しながら、全員で方針が共有できるよ うにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者一人ひとりの誇りを損ねるような言葉かけや対応 をしないように、ホーム独自の介護目標を掲げて取り組 んでいる。また、記録は事務室で作成して保管すること など、個人情報の取り扱いにも注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合ではなく、利用者一人ひとりのペースや 体調を考慮しながら、個人の希望にそった支援が行わ れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立の食事が利用者の状況に合わせて提供されており、職員と利用者が一緒に盛り付けと後片付けを行うようにしている。また、毎日の「おやつ」は利用者の希望をとり、好みの物を作りながら楽しんで食べることができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調に合わせた個別の入浴支援が行われ、回数や時間についても利用者ごとの希望が尊重されており、夜間の入浴も可能となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字で献立を書いてもらう、草花への水やり、神棚へのご飯上げ、子供達の登下校時の見守り隊など、利用者ごとにそれぞれの役割があり、これまでの趣味や得意なことを活かして、一人ひとりが楽しく生活できるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の希望や体調に合わせて、散歩、ドライブ、買い物など、戸外に出かけられる支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	夜間以外は玄関に鍵をかけず、利用者の状態に注意して、見守り等によって利用者が安全に過ごせるよう支援されている。また、鍵をかけることの弊害が運営者や職員によく理解されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生をも想定しながら、毎年2回の避難訓練が消防署からの参加も得て実施されている。また、食料の備蓄や地域防災訓練への参加も行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の食事や水分摂取量は記入することによって把握されており、一人ひとりの状態に応じて、きめ細かく対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や家族が撮影した季節の草花の写真が居間に飾られており、また、バック・グラウンド・ミュージックを流したり、畳部屋でお茶会を開催するなど、ゆったりとした寛ぎの時間や楽しい交流のひと時を過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には利用者自身が長年使い慣れた好みの写真や飾り物があり、安心して過ごせる個性を尊重した居室になっている。		